



モダン寺新聞
～今号の記事～

一口法話「報恩講」
本願寺神戸別院輪番挨拶
浄土真宗の作法くお経の意味く
神戸別院の行事レポート

4 P 3 P 2 P 1 P

一口法話 「報恩講」

神戸市北区 高松寺 谷川 弘顕

一人の人間の死を悲しむ時、その悲しみの底にはその人によって贈られたものがあります。贈られていないのであれば、それは他人の死であって無関心です。しかしその人の死が深い悲しみであることは、実は贈られたものの大きさ、つまりその人の一生を贈られていると受けとめられるのです。親鸞聖人が、本典（教行信証）の後序に、法然上人と共に流罪になり、ご入滅を述べられた後、

「しかるに愚禿釈の鸞、建仁辛酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す」と「悲喜の涙を抑えて由来の縁を註す」と言われてあります。

親鸞聖人が師法然上人のご入滅（死）を通して、贈られたものの大きさを確かめられ、領かれたお言葉ではないでしょうか。つまり、雑行を棄てて本願に生きる身になった歓びであります。

報恩講と申しますのは、親鸞聖人の死を通して贈られた大きさを受けとめた人々の営みであったのでしょうか。

単に形式で終るのではなくして、私達念仏者にとっては、一年、三百六十五日が報恩講であるとも言えます。

それは念仏者の生活を貫く心であるからです。

「雑行を棄てて本願に帰す」生き方を、この報恩講の縁をつくして、親鸞聖人から私に贈られた大きさをしっかりと受けとめさせていただきたいものです。

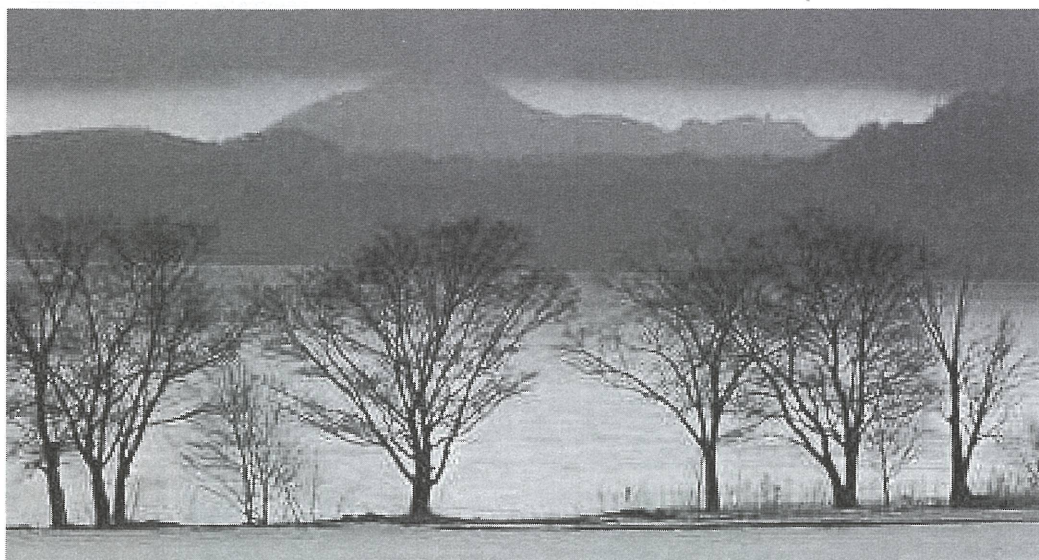


本願寺神戸別院 「報恩講法要」

平成10年11月27・28・29日（金・土・日）

家族そろってお寺にお参りしましょう。





ご挨拶

神戸別院輪番

高橋廣爾



報恩講は、宗祖親鸞聖人の
ご往生の日である一月十六日
(旧暦十一月二十八日)を、
ご縁として、九十年のご生涯
を偲ばせていただくとともに
聖人のご苦勞によつて、今、
私がお念仏に出遇うことがで
きたことをよろこび、さらに
深く聴聞を重ねさせていただ
く、大切な仏事であります。
毎年、ご本山では一月九日
から十六日まで七昼夜にわた
りご正忌報恩講が営まれます
ので、一般寺院や門徒の家庭
では、日を繰り上げてつとめ
ます。日を繰り上げることか
ら、「おとりこし」ともいつて
いるのです。

次郎やんとこの報恩講に
ハアよ おまいり まいり
三太もこいや
おまいり まいりの
ふれあるき

門徒の家々でつとまる報恩
講のはじまりを告げる「ふれ
あるき」という讃歌です。

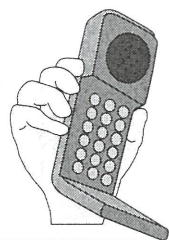
時代が移り、形や習慣は変
つてきたかもしれませんが、
真宗門徒のこころを暖かく養
つてきた報恩講のこころは、
大切に伝えていかなければな
らないと思います。
「弥陀願力の信心を獲得せ
しめたらん人のうへにおいて
こそ、仏恩報尽とも、また師
徳報謝なんども申すことは
あるべけれ。」

(ご文章―註釋版聖典1157頁)

蓮如上人は、ほんとうのご
恩報謝は、この私が、アミダ
さまのお慈悲にめざめること
においてこそ、語ることで
きるものであると、お示しに
なりました。

このお言葉を、深くこころ
に頂戴し、お念仏に満ちあふ
れた報恩講をおつとめさせて
いただきたいものです。

神戸別院「報恩講法要」を
来る十一月二十七・二十八・
二十九日の三日間厳修いたし
ます。お誘い合せご参詣下さ
いますよう、ご案内申し上げ
ます。



モダン寺 テレホン法話 (078) 361-0091

11/8~11/14

11/15~11/21

11/22~11/28

11/29~12/5

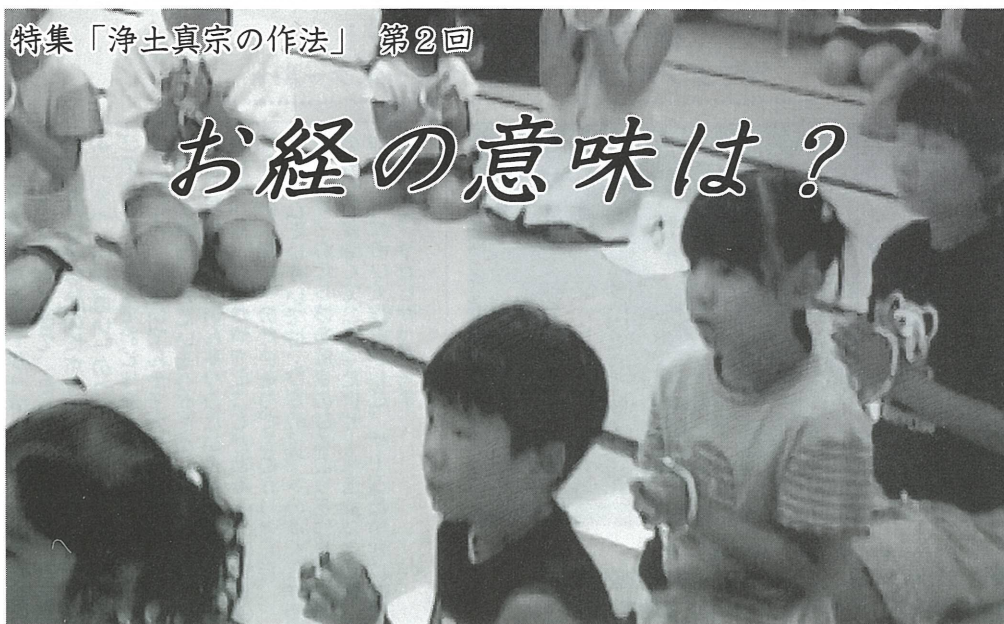
12/6~12/12

いつでも、どこでも聞いていただけます。
1週間ごとに新しい法話がいただけます。



特集「浄土真宗の作法」 第2回

お経の意味は？



＜勤行の作法＞



①合掌礼拝する



②聖典をいいただき開ける



③おりんを打つ

勤行の後③②①の順で行う

浄土真宗のお勤め・お作法
についてのおたずねは
078-341-5949
神戸別院まで

月忌参りなどで門徒さんの家を訪れてお勤めするとき、しばしば寂しい思いをすることがあります。それは、せっかくお参りしているにもかかわらず、家の人誰もそばにいないで、一人で勤行しているときです。家の人は、と言うと、別の部屋で何やら用事をしていたり、お勤めが終わってから出すお茶の用意をしたり…といった調子です。

命日にお勤めするのは、亡き人を偲びつつ、それを縁に仏法を聞き味わうため、「私」を抜きにしてはあり得ません。僧侶がお参りさせていただくのも、そうした家族の方がたに仏縁を結んでいただくためであって、けっして「故人にお経を上げるため」ではありません。

ですから、お茶の心配をしていただくことはありがたいのですが、それよりも、一緒に座って、お勤めに加わっていたきたいのです。

さらに、僧侶がいなくても、日ごろからお経に親しみ、お勤めができるようになって下さればと思います。お経は確かに難しい漢字が多く、意味を理解するの

は容易ではないでしょうが、繰り返し上げてみると、自然にスラスラ言えるようになり、経文の仏教用語にも興味がわいてくるものです。

そこで日常の勤行と、その作法について述べてみましょう。

ぜひお勤めできるようになっていただきたいのは「正信偈・六首引」です。「正信偈」は蓮如上人の頃（十五世紀）から、先祖の方々が読み親しんでこられたお経（聖典）であり、真宗門徒の必須のお経と言えます。

このほか、時に応じて「仏説阿弥陀經」



や「讃仏偈」「重誓偈」「十二礼」など、『浄土真宗聖典』や『門徒勤行集』に載っているお経も上げて下さい。

ただ、「般若心經」やご詠歌はお勤めしません。それは、浄土真宗の勤行が、仏徳讃嘆であり、阿弥陀如来のご本願のおかげで救われていくことを慶んでお勤めするからです。自力修行を前提とした「般若心經」などは、その点、そぐわないわけです。

勤行の作法は、①念珠を両手にかけ、合掌礼拝する、②経卓やひざに置いてある聖典を両手でとっておしいただき、開ける、③右手でバチを持ち、リンを二回打つ、④勤行中は聖典を胸の前に両手で持つ、⑤お勤めの最後は、通常リンを三回打つ、⑥聖典を閉じて両手で抱いたまま、元の場所に置く、⑦合掌礼拝する以上要領です。

なお、大切な聖典ですので、畳や床に直接置くことは避けましょう。また、リンは勤行以外の時は鳴らさないようにしましょう。

『仏事のイロハ』（本願寺出版社）より抜粋

お寺での楽しい思い出は、忘れられないものとなるでしょう。

キャンブファイヤーが一ばんこころにのこりました。はじめにホワイトマンが出てきて、たんじょう日のうたを教えてもらったとき、5月じゃないのにホワイトマンがひっぱっておもしろかったよ。「キャンブだほい」のうたのとき、いろいろな人とやってさいごのへんだけ一人でおとりました。とちゅう、火のところにちかづいて見たら、まういでんきで火じゃなくてうそつきと思いました。つぎの朝ウジョたいそがたのしかったです。はじめのわけからないうただって、あんまりうたいませんでした。それでたいそがたはじまって、なんかやったことがあろうないうそで、とちゅうでふくい(福井)のたいそだとわかりました。

ゲームたいかいでは、ひまわりマンのふくを作るゲームが楽しかったです。わたしはあたまのひまわりを作りました。はじめさいころのおり紙がなくてこまったけど、色をゆりました。花びらを大きく作って、かわいく作れました。ゲームたいかいにはミウチームが勝ちました。うれしかったです。

※「第一土曜仏教講座」は休座

『杉本顕俊著「法語掲示板」(探究社発行)より引用』